2017.03.05（佐賀市教育委員会）

三重津海軍所跡 23 区（船屋地区）調査
現地説明会資料

佐賀市では平成 21 年度より三重津海軍所跡の発掘調査を継続的に実施しています。本年度は船屋地区を対象に実施しています。船屋地区の発掘調査は、平成 21 年度（8 区・17 区）につづき 3 箇所目になりますが、入り江（現在の漁港）の南東側にあたる早津江川河岸部の調査は今回が初めてとなります。発掘調査の結果、長さ 50 m程（46.8m以上）の大型の建物が存在したことが判明しました。

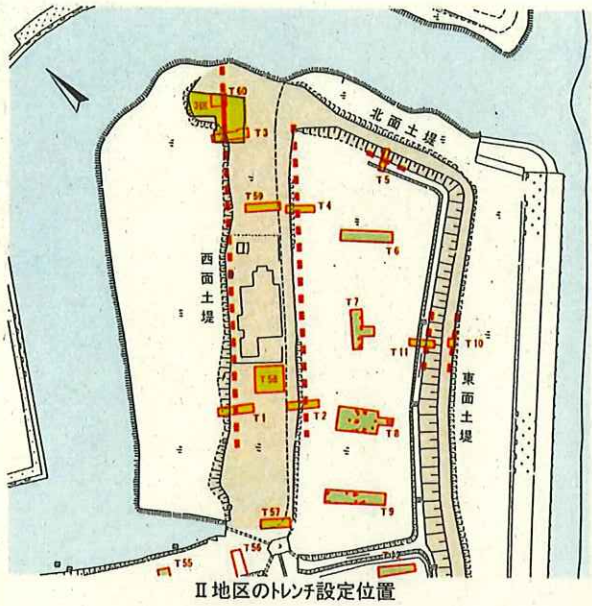
また、18 世紀末や幕末期の船屋周辺を描いた絵図を参考にすると、調査区の周囲には土堤がコの字状に築かれていたことが判りますが、この土堤の一部も検出できました。大型の建物は、土堤の内側の細長い区画の全体を使って建てられていたものと考えています。

これらの調査成果は、これまで詳細が判ってなかった船屋地区の実態把握のための貴重な資料です。来年度以降の発掘調査で建物の規格や所属時期を明確にするとともに、絵図や文献調査成果を踏まえ、なぜこのような大型の建物が建てられたのか解明していきたいと考えています。

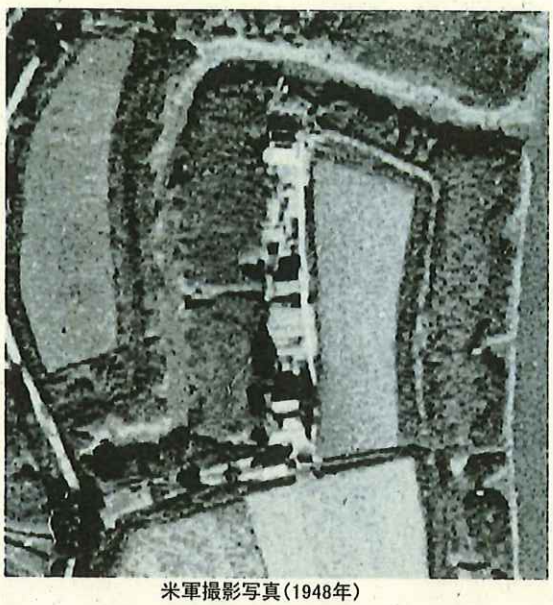
※線内側が検出した建物

確認調査と調査前写真

本地区では、平成 13-14 年に確認調査を実施し、多くの「杭」が存在することや土堤の範囲も明らかになっています。しかし調査規模や期間が限られていたため、その性格までは解明することまでは残念ながらできませんでした。今回の調査では、以前「性格不明の杭」として報告されていた遺構が、実は大型建物の柱や基礎杭であったことが明らかになるとともに、土堤の盛土の状態も観察することができ、船屋地区の実態解明に一歩近づくことができました。



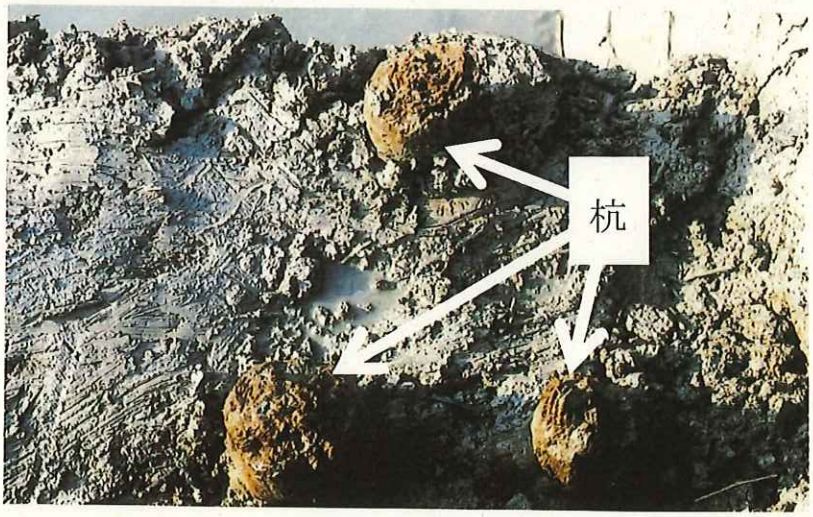
Ⅱ地区のトレンチ設定位置



米軍撮影写真(1948年)

0　50m
1:1500

近世土堤盛土検出トレンチ
近世造成土検出トレンチ
近世土堤(推定)
近現代土堤(写真、地形図より推定)



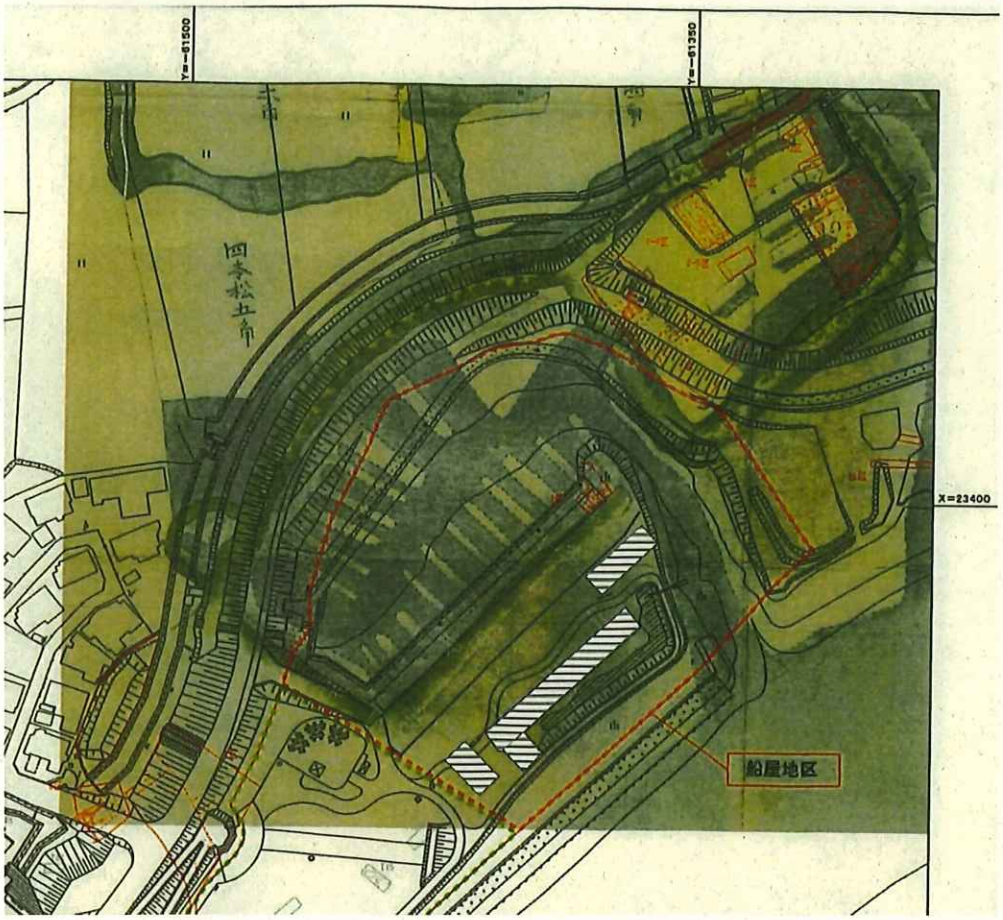
確認調査の際に検出した杭

当時の調査では「性格不明」と報告されましたが、今回の調査で大型の建物の一部であったことが新たに判明しました。

18 世紀末の三重津船屋周辺

寛政 4 年「川副東郷上下村」（佐賀県立図書館蔵、郷土 0076）の一部　図の上が北になる

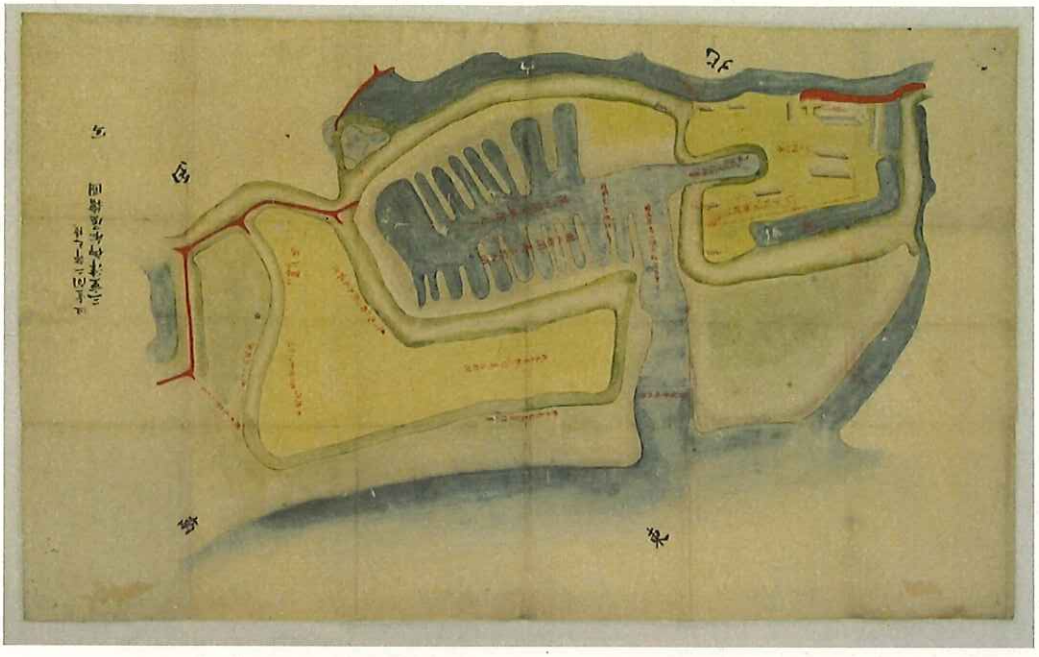
※寛政 4 年は西暦 1792 年



:本年度の発掘調査地点

寛政 4 年「川副東郷上下村」と現地形図の合成図

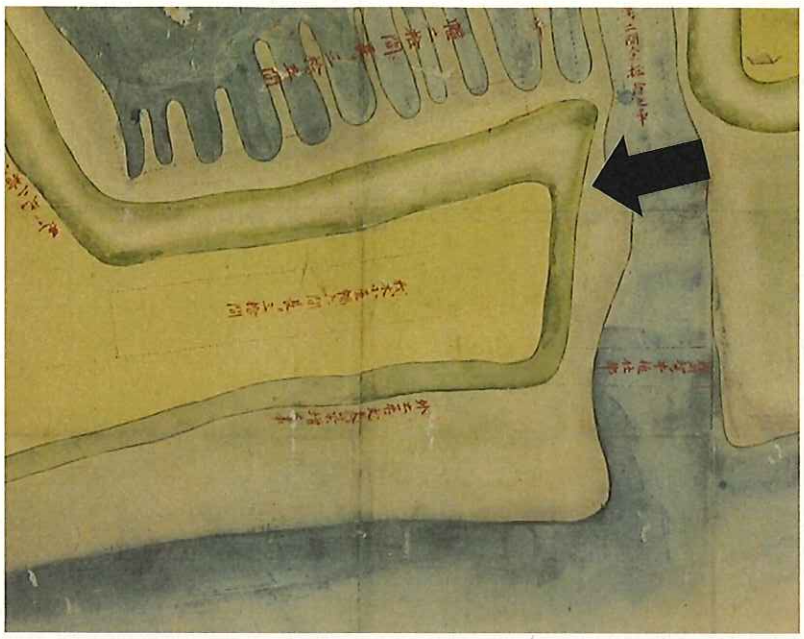
幕末の三重津船屋

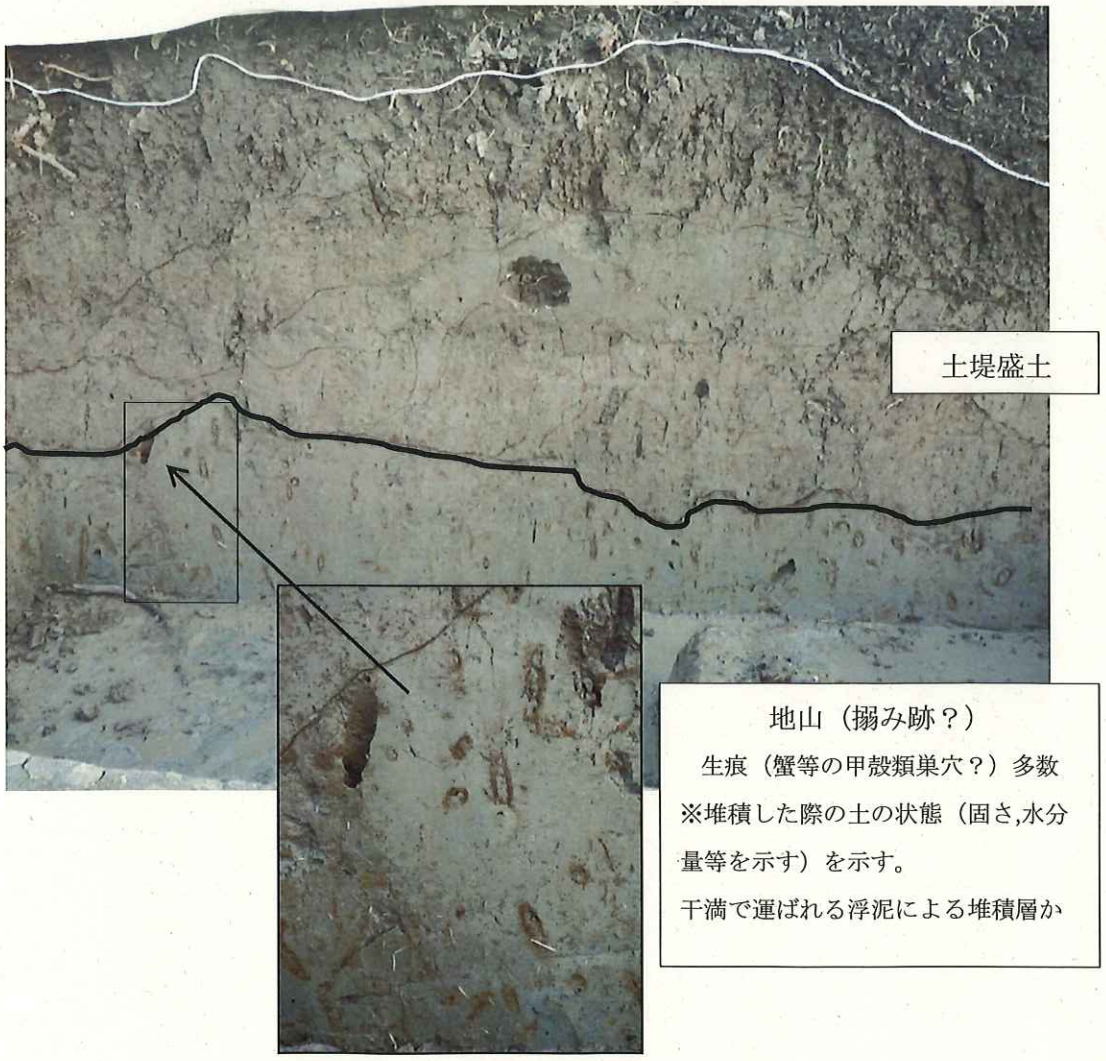


「三重津海軍所船屋絵図」佐賀県立図書館蔵（郷土 1058）

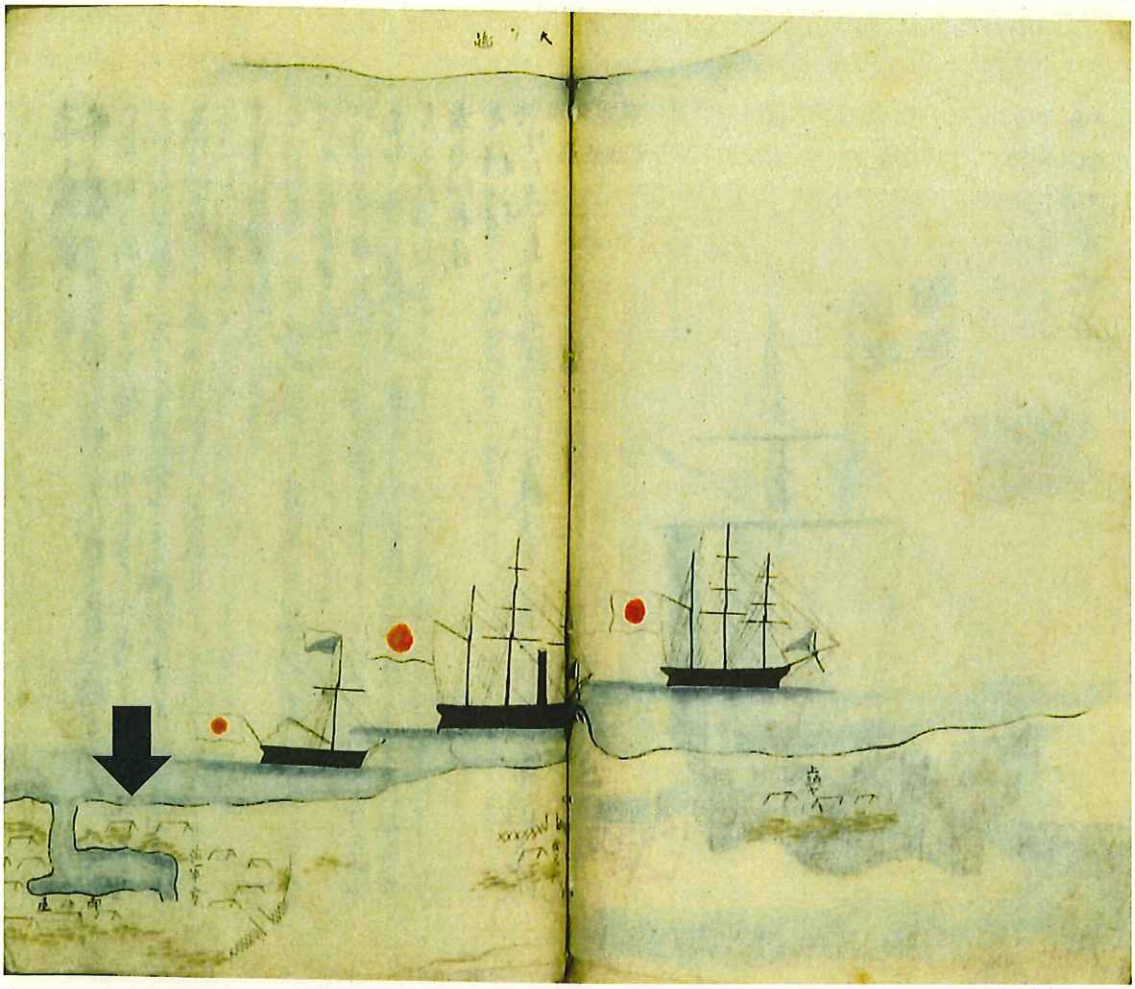
土堤

良好な保存状態で土堤盛土が残存していることが判明

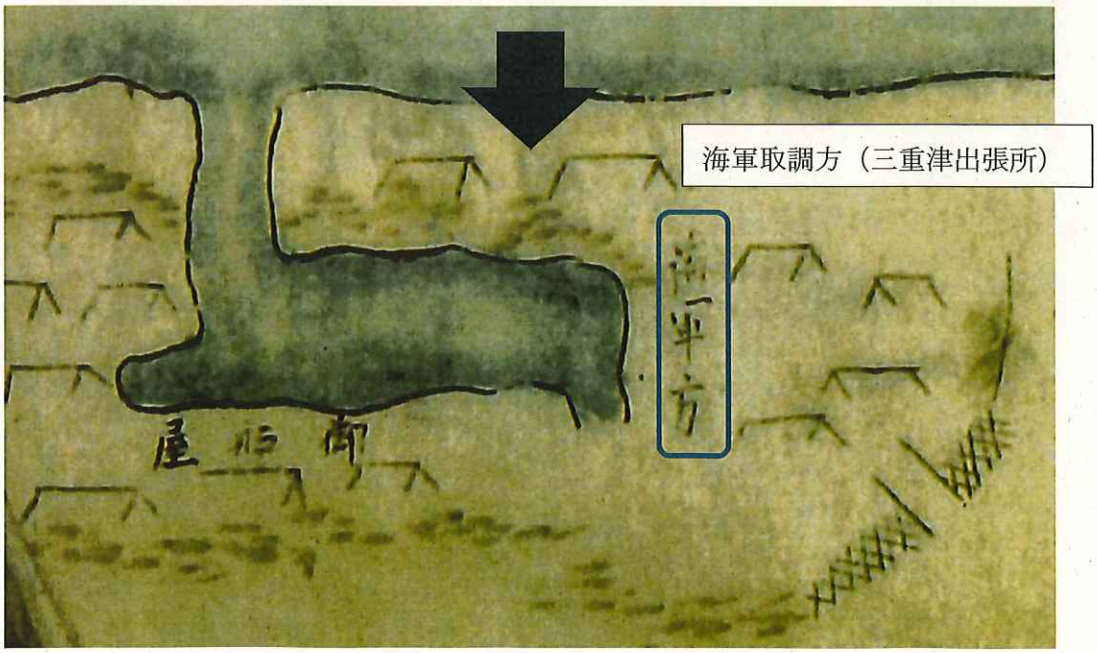




その他の絵図と建物群



鍋島家文庫「白帆注進外国船出入注進 坤」公益財団法人鍋島報效会蔵（S 複鍋 252-56-02）佐賀県立図書館寄託



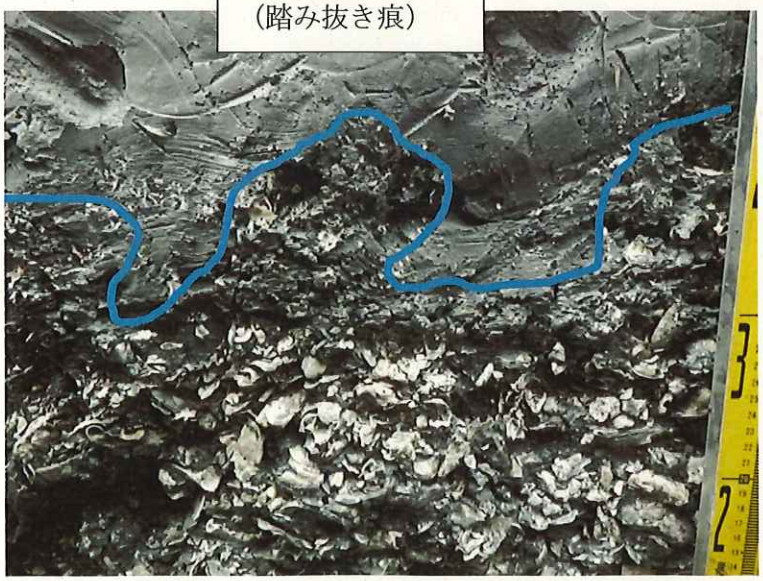
厚い貝殻（牡蠣殻）密集層の検出

遺構を検出した地面から1.4～1.6m程下部で密集した貝殻層（厚さ1.5m程）を確認

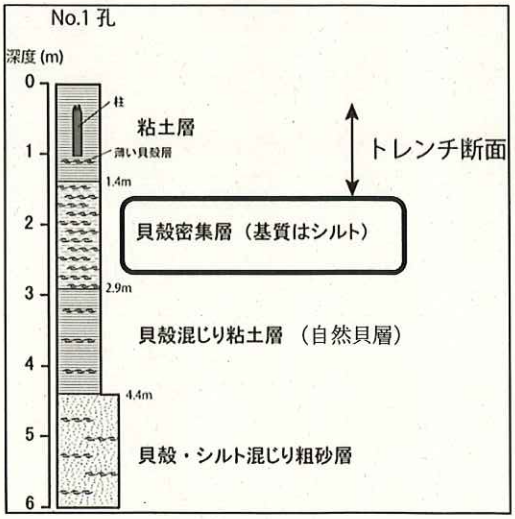
貝は牡蠣のみで構成され、完全な殻もあるが小さく破砕片が多い。不規則な向きに混交した状態で堆積する。

変形痕は幅10cm程あり、人のような2本足あるいは4本足の動物が貝殻堆積後に上面を踏みしめて歩いた痕跡（生痕）の可能性が高い。貝殻を意図的に投入して安定した基盤を確保した上でなんらかの作業を行った痕なのかもしれない。今後、調査全域で変形痕（生痕）が確認されれば、少なくとも貝殻層上面は人工的に造成したものと言える可能性が高まる。三重津船屋土地造成ならびに低地での干拓（搦み）工法の解明にも寄与する発見になると期待される。更なる調査情報を確保に努めたい。

貝殻上面の変形痕（踏み抜き痕）
幅10cm程あり、人のような2本足あるいは4本足の動物が貝殻堆積後に上面を踏みしめて歩いた痕跡

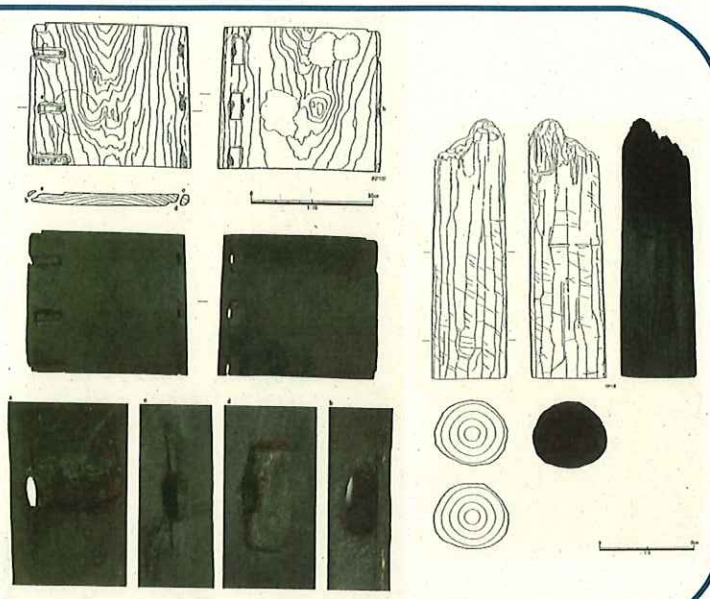


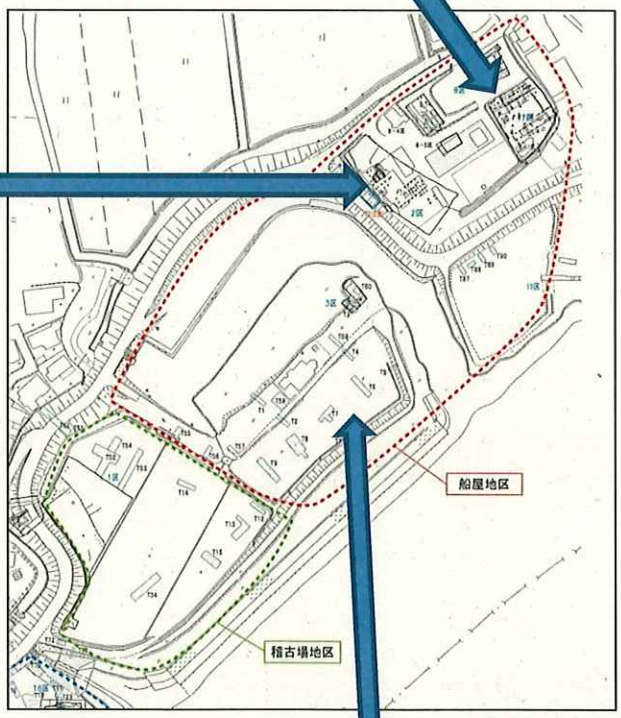
貝殻上面の変形痕
（踏み抜き痕）

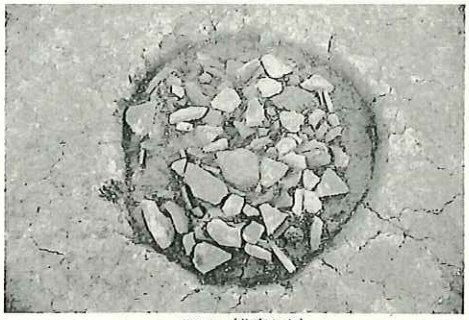


ボーリング土層柱状模式図

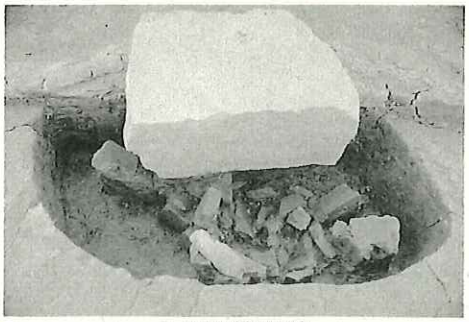
（参考資料）船屋地区で検出した建物基礎構造比較







1. P2141（北東から）



3. P2121（北西から）